

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇(1階)		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	H27年2月6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2294200536-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2294200536-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成27年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>会社の理念「家族の和」を基とし、笑顔で楽しく仕事をさせて頂くことが、穏やかに笑顔で過ごして頂けることに繋がっていくと思っております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の定着を課題として、情報統一のためユニット単位にスタッフ会議を行い、申し億ノートと連絡ノートの目的を明確にしました。認知症、接遇、虐待防止といったメニューを以てスタッフ研修を法人本部が執り行ったことが基礎となり、また新採には現場2日、管理者マンツーマン1日総計3日間の現場研修がおこなわれ、成果もみられています。この一年も入れ替わりはありましたが、運営推進会議では地域包括支援センター職員から「数年前に比べ、アットホームさが増して雰囲気よくなっている」と評価を受け、また管理者も「相手を想う気持ちのある職員が増え、愉しく仕事ができている」と感じる日々を送っています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念を玄関・事務所に掲示し、朝礼時に復唱している。社内研修では、全スタッフに基本理念の意識づけが出来るように教育を行っている。	利用者本人だけでなく、その家族や職員、また職員の家族を含め、ファミリア西脇に関わる人の和を目指し業務をおこなっているため、家族から「此処があるから私たちが生活できる」との言葉をもらえることは大きな励みになっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に参加頂き、地域情報の収集に努めている。また、その中で参加できる地域の行事等があれば、入居者・家族様含め、ご参加させて頂いている。(町内のお祭り、敬老会、防災訓練等)	加入の町内会から届く回覧板には事業所通信も挟んでもらえています。どんど焼きでは豚汁や汁粉を堪能し、敬老会をはじめ夏祭りや盆踊りには席も用意されています。ボランティアの訪問はありますが、今後は児童や園児との交流を課題としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通じて地域の話をする事で、地域事情の収集に努めている。また随時、ご見学者のご希望を承っている。予約のお電話がなくとも、気軽に見学して頂けるような、開けた施設として地域に根付いていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の頻度で開催。自治会、民生委員、ご家族様、包括等にお集まり頂き、運営状況の報告や議案を提示し、情報交換に努めている。	実施日を定めることで隔月開催できています。会議では、民生委員が挙げた近隣での困りごとについて地域包括支援センター職員から適切なアドバイスが得られたり、カラオケボランティアの紹介もあり、有意義な場として定着していることが視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者様の情報等を地域包括に報告し、円滑な連携が図れるように努めている。また、月に一回、静岡市保健福祉子ども局福祉部介護保険課の相談員が来訪し、入居者様と交流し、助言を頂いている。	運営推進会議の市職員の出席は年1回に留まっていますが、窓口には毎月出向く用件があるため相談事が解決に向かう態勢にあります。介護相談員は職員にも配慮があり、率直な言葉をかけてくれます。介護相談員受入事業者意見交換会へも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」を玄関に掲示、スタッフも意識して介護にあたっている。いかに拘束以外の方法で危険を回避できるか、スタッフ同士ミーティング等で改善策を話し合っている。	職員が迷っている場面では「自分がされたらどうか」「自分がされて嫌ならやめよう」と具体的に実践指導をしています。法人本部の身体拘束排除に係る研修会では全員が学習できるようシフトを工夫し、成果は職員の声かけに現れはじめています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体の介護研修を開催し、虐待に値する行為に対し、正しい知識を持ち、教育を行っている。お互いに注意喚起できる環境を作り、入居者様の尊厳を尊重するような介護の実践を目指す。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者様はいらっしゃらないが、管理者は、入居者様の事例を用いてミーティング時に勉強会を実施し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等、全ての説明を入居者様・ご家族様に充分説明を行い、理解と納得を得てから、契約を行っている。また、その際に入居に伴う不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時にも、状態変化に伴うケアの方向性の変更点が分かるように説明している。また、こちらからのご希望をお伝えする際も、ご家族様のご意見とのすり合わせを行い、家族様の意向を反映出来るようなケアに努めている。	面会では家族と職員とでお茶を味わいながら談笑する姿もあります。請求書発送時にはファミリア通信と身体状況報告書を同封し、「よくわかって嬉しい」という声ももらえており、中には管理者に電話でストレスを吐露する人もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、ミーティングを実施し、管理者と職員の意見交換の場を設けている。また、その際に運営方針の統一に努める。日々の相談は、朝礼時に報告したり、個別に管理者にあげるようにしている。	申し送りノートは利用者の特記事項、連絡ノートは事務連絡と明瞭に目的を分け、またユニット毎に会議をおこない、意見がしやすいよう整備しています。業務分担表は職員間で決めており、自主性が培われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修を定期的実施し、環境改善に取り組んでいる。現在も業務の見直しを行っている。各々のスタッフの働きやすい労働条件を加味して、シフトの作成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには教育担当がつき、介護技術の基本や自尊心を尊重できるような声掛けが出来るよう、教育している。社内研修にて既存のスタッフが、新人スタッフを教育する上でのマニュアルを認識できる様に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区内のグループホーム事業者の会合に、現在も参加しており、情報交換や質の向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報をスタッフ皆に、事前に確認して頂き、情報の周知に努めている。新しく入居された入居者様には積極的に話しかけ、少しでも早く慣れて頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のご契約の際は管理者が、ケアプランの説明の際は、ケアマネジャーが面談させて頂いている。ご家族様のご意見を傾聴し、今までのご家族様との関わりの延長線上の介護の提供が出来るよう、ご希望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規案件を承ったら、早急に面談を行い、事前の情報収集に努めている。また、その際の身体状況の把握と、当施設でどのような受け入れ態勢をとれるのかを話し合い、万全の態勢でご入居をお待ちできるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中に役割を感じて頂ける様に支援している。洋裁などが得意な方には、御針子の仕事を依頼したり、洗濯物など手伝って頂ける方には、皆様の分をスタッフと一緒に畳んで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者を中心に、必要な協力体制を整えて頂ける様に、ご家族様と連携を取っている。また、ご家族様の来訪時には、スタッフからも近況の報告を行っている。ケアプラン郵送時にも、現状の変化・協力・ご理解頂きたい内容等を手紙にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会はもちろんのこと、ご友人が来訪された際は、スムーズに外出などの支援が出来るように、フォローしている。スタッフとご家族様が顔なじみになることで、面会に来やすい雰囲気づくりに努めている。	毎月家族と寿司やかつ丼の夕食がある人、定期的に友人が訪れる人、洋裁の腕を活かしてボタン付けやウエスカットをおこなう人、それぞれがやりたいこと、できることをおこなっています。安定するに順って、面会できる家族が増えていくという利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の人間関係が友好的になるよう、社会常識から著しく外れてしまうような事柄等は注意を行う時もある。(理解力のある入居者様に対して)なるべくリビングで過ごして頂き、共同生活の利点を活かしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されても、スタッフからご家族様にご本人様の生活についてご報告する事で、「このホームで過ごせて幸せだったことでしょう。」と感謝の言葉を頂くことが出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	見たいテレビ番組など、他の入居者様との折り合いをつけながら、個人のご希望も叶えられるように、スタッフが気配りを行っている。共同生活を行う中でも、個人の時間の流れを感じて頂けるように配慮している。	入居前に家族やキーパーソンから生活歴や暮らしの趣について聴取しており、特に「午前中に風呂に入りたい」といったこだわりを大切に、意向に沿っています。また、カンファレンスで本人本位への係わりの方法を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、ご家族様から生活歴や趣味などの把握に努め、スタッフ同士で共有できるように、情報の統一に心がけている。また、入居後も会話の中から、馴染みの暮らし方などの意向を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、記録、職員間の伝達ノートなどを活用し、情報の共有に努め、日々の変化に気づき易い体制作りを努めている。食事摂取状況から、食事形態を変更したりと、変わりゆく症状の変化に伴うケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体機能の低下に伴い、今までの介護方法では困難に直面する場面が多かった。その際は、スタッフ同士で意見を出し合い、ご家族様にご報告・相談を行う事で、福祉用具の変更など、現状に即した介護を提供できる様に努めている。	入居から1ヶ月は暫定プランとして、その後3ヶ月毎に、また入退院等変調の度に見直しています。ケアマネージャーと管理者で作成し、職員には「私たちの仕事」とかみ砕いてわかり易く説明しています。	ケアマネージャーの責務が実質成されていない点が家族アンケートから挙がっていますので、早急に是正することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りを通じて、変調があった際は適時、対応ができるように情報共有を行っている。ケアの方向性の統一を行うように努めているが、記録内容に気づきの視点が少ない部分もあるので、今後、教育が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全てのニーズを汲み取ることは困難であるが、なるべくご納得頂けるような声掛けに努めている。通院時に介護タクシーを手配したり、必要物品を代わりにご購入させて頂いたり、ご家族様のご負担の軽減に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員からの紹介で、イベント時にボランティアの慰問を依頼している。今後は、新たな慰問を探したり、バリアフリー対応になっている場所に、外出レク等を行っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医とは月2回の往診。緊急時には、24時間対応で医師が往診に来られる体制をとっている。体調不良時は、小まめな往診の依頼を行い、総合病院への紹介なども行って頂いている。また、ご家族様の付き添いによるかかりつけ医への受診も対応している。	従来からのかかりつけ医へ家族の付き添いで受診する人が2名います。主治医と相談して欲しいことは予め伝え適正な判断をもらえるよう支援しています。診療内科には詳細な生活記録を携えて管理者が同行しています。全体往診が月1回あるほか、協力医は個々の往診もおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師が来訪され、健康管理を行っている。スタッフは、日々の体調の変化などを看護師に報告・相談をし、医療的な視点で指導を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、管理者が同行し、病院との連携を図っている。また、経過観察のため、お見舞いに伺ったり、ご家族様とも密な連携を図っている。また、入居者様の退院時は、職員体制も調整し、急変時に対応できるような体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態の変化が見られ、看取りの支援を行う際は、ご家族様、医師と改めて話し合いを行い、方針を決定している。	契約に際しては医療的措置が必要であれば看取りをおこなうことを家族に伝えていきます。職員は日頃から「穏やかに過ごしてもらうことを念頭に」との指導を受けていて、看取りにも抵抗感なく自然に取組んでいます。また、医師も24時間対応でターミナルケアに協力的です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を通じて、救急対応の知識の習得など、急変時に的確な対応が出来るように努めている。実践での対応が可能になる様、経験を通じて学ぶ姿勢を持っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、自治会との連携を図っている。また、連絡網を作成し、災害時に円滑に連絡ができる様にしている。ホーム内でも、防災訓練を行えるように年間計画に組み込みたい。	職員の入れ替えに伴い、本年度は本格的な訓練がおこなっていません。連絡網を試し何分かかかるかの計測や消火器の設置場所を確認するのみに留まっています。自主防災組織に所属する管理者が、地域防災訓練において避難場所まで歩いています。	初期消火にあたり、一度消防署職員の指導を仰ぐことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の症状により、帰宅願望や不穏等の症状が見られるが、早めにスタッフが気づき、対応を変えることで悪化に至らないように配慮している。	居室に入るときには必ず声をかけることを徹底しています。トイレ誘導も「ちょっと行ってみようか」といった代替の言葉を準備しています。法人研修では接遇について学び、その後の職員の言動にも変化がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、個々の入居者様の思いを自由に表出して頂けている。共同生活の中で、全てを叶えて頂くことは困難であるが、ご説明をさせて頂き、ご本人様が納得した形で自己選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活リズムを尊重できるように、規制をしないように配慮している。できる限り、ご自宅での生活の延長線上になるように、自由な生活と体調管理ができる様、双方のバランスに留意し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は、自室に鏡台を準備されたり、洗面所にて自身で髪を整えたりされている。皮膚疾患や起居動作に障害になる場合は、ご家族様と相談させて頂き、出来る限りのおしゃれが継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、肉・魚など専門店から購入し、新鮮な食材を使用している。柔らかいお食事を提供し、高齢者の方に好まれる食事に配慮している。また、嚥下機能の低下がみられる方には、食事形態を工夫する。	メニューは本部の管理栄養士のたてたメニューにそって、一汁三菜をベースとしています。曜日によって朝食にパンを取り入れ、昼食は脂っこいものは避け、栄養面のほかにも見た目や味わいへの気遣いがみられます。職員も同じテーブルを囲み、話も弾んでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を確認し、不足がある場合は声掛けにて促す。特に、暑い季節には脱水症状が起きないように充分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自立支援を促し、出来る部分は自己にて行って頂き、最終確認をスタッフが行っている。介助の拒否がある際は、時間をおいて気分転換したのちに施行している。また、必要時には歯科医が往診している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握できるように、排泄チェック表を用いて、声掛けを実施している。服薬状況を確認し、個人の特性などに配慮し、なるべくお手洗いで排泄が可能になるように介助している。	できるだけ日中はトイレを慣行するためリハビリで過ごし、立位がとれない人を除きオムツは夜間のみとしています。「漏れると気持ちわるい」という人には夜間でも何度か様子をみています。トイレには陰部清浄ポットが常備されていることを視認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールが必要な入居者様が多い為、排泄チェック表にて確認し、服薬の調整を行っている。なるべくご本人様に負担の少ない排泄リズムを作れるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の固定はなく、各々の入居者様が定期的な入浴をご提供できるように努めている。時間帯などの希望のない方がほとんどである為、昼食後のスタッフ密度の高い時間帯を利用して、安全に入浴して頂ける様にご支援している。	車いす利用者も多くなっていますが、湯舟に浸かる喜びは格別と捉え、2人介助で以前と変わることなくほぼ1日おきの入浴がおこなえています。洗いタオルと併用で軍手を導入し、指の間といった細かい箇所まで洗身できています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	19時以降の就寝準備を行う際は、なるべく静かに声掛けし、眠りの妨げにならない様に注意している。夜間帯に覚醒してしまう入居者様には、就寝時間や服薬時間等を調整している。個人にあわせ、日中帯も昼夜逆転にならない程度に、臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に、状態の変化に応じ、処方相談を行い、調整を行っている。服薬変更時、情報の周知徹底が不十分である為、改善が必要に感じる。各スタッフに責任を持って服薬介助を行って頂く様に、常に業務改善を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況の低下により、今までの趣味や役割を継続することが困難な現状ではある。誕生日会やイベント食を通じて、楽しみのある生活の提供に努めたい。また、お手伝い頂いた時は、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じて頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族様が面談に来られ、半日ほど外出される方もいらっしゃる。また、通院の援助もご家族様がご担当頂いている。誕生日の方を近所のパン屋にお連れしたり、海までドライブに行ったり、刺激のある生活の提供に努めている。	重度化症状が蔓延していることから年度計画も進まず、近所への買い物や散歩程度のことしかできなくなっています。できることならの想いから、思い立って海岸線へのドライブに出かけたこともあります。	散歩が難しくても1日のなかに外気浴を位置付け、外出が出来なくともDVDや食べ物で外の景色を感じる工夫を期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様は紛失の危険がある為、ご家族様からお小遣いをお預かりし、管理者が管理している。必要な物品の購入時は、ご本人様・ご家族様にご希望等を伺い、承諾されたのちに購入に至るように、連携を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からご希望があれば、お電話をお貸しし、ご家族様と連絡をとられる方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は、毎日、掃除機・薬液により水拭きを行い、清潔の保持に努めている。入居者様の誕生日やご年齢が分かるように掲示物を作成し、明るい空間作りに努めている。	カサブランカ、桃といった季節の花々が玄関で出迎えてくれ、ひな祭りの愛らしいお菓子が心に染みます。異食には掲示物を外し、転倒にはソファの位置を替えるといったリスクマネジメントを配した空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食卓など自由な空間として提供し、ご負担なく過ごして頂ける様に、トラブルにならないようにスタッフが間に入り、ご支援させて頂いている。また、お一人の時間を過ごしたい際は、自室にて音楽やラジオなどを聴いて、気分転換を図られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのお洋服や家族写真などを持ち込んで頂き、家族様との繋がりを感じて頂き、なるべく安心感を感じられるような空間作りをしている。	ベッド、チェスト、カーテン、エアコンが備わっていますが、鏡台をはじめ大振りな家具の持ち込みもあり、音楽好きな人は自宅からCDを持参しています。転落が心配される利用者はマットレスで就寝しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード的な面で、死角になってしまう部分には、スタッフが声掛け等でカバーして、危険の回避に努めている。自由に車いすで自走して頂いているが、スタッフの目の届く範囲で動いて頂いたり、生活導線を考えた家具の配置に心がけている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇(2階)		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	H27年2月6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=229](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=229)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念「家族の和」を基とし、笑顔で楽しく仕事をさせて頂くことが、穏やかに笑顔で過ごして頂けることに繋がっていくと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の定着を課題として、情報統一のためユニット単位にスタッフ会議で行い、申し億ノートと連絡ノートの目的を明確にしました。認知症、接遇、虐待防止といったメニューを以てスタッフ研修を法人本部が執り行ったことが基礎となり、また新採には現場2日、管理者マンツーマン1日総計3日間の現場研修がおこなわれ、成果もみられています。この一年も入れ替わりはありましたが、運営推進会議では地域包括支援センター職員から「数年前に比べ、アットホームさが増して雰囲気よくなっている」と評価を受け、また管理者も「相手を想う気持ちのある職員が増え、愉しく仕事ができている」と感じる日々を送っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念を玄関・事務所に掲示し、朝礼時に復唱している。社内研修では、全スタッフに基本理念の意識づけが出来るように教育を行っている。	利用者本人だけでなく、その家族や職員、また職員の家族を含め、ファミリア西脇に関わる人の和を目指し業務をおこなっているため、家族から「此処があるから私たちが生活できる」との言葉をもらえることは大きな励みになっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に参加頂き、地域情報の収集に努めている。また、その中で参加できる地域の行事等があれば、入居者・家族様含め、ご参加させて頂いている。(町内のお祭り、敬老会、防災訓練等)	加入の町内会から届く回覧板には事業所通信も挟んでもらえています。どんど焼きでは豚汁や汁粉を堪能し、敬老会をはじめ夏祭りや盆踊りには席も用意されています。ボランティアの訪問はありますが、今後は児童や園児との交流を課題としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通じて地域の話をする事で、地域事情の収集に努めている。また随時、ご見学者のご希望を承っている。予約のお電話がなくとも、気軽に見学して頂けるような、開けた施設として地域に根付いていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の頻度で開催。自治会、民生委員、ご家族様、包括等にお集まり頂き、運営状況の報告や議案を提示し、情報交換に努めている。	実施日を定めることで隔月開催できています。会議では、民生委員が挙げた近隣での困りごとについて地域包括支援センター職員から適切なアドバイスが得られたり、カラオケボランティアの紹介もあり、有意義な場として定着していることが視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者様の情報等を地域包括に報告し、円滑な連携が図れるように努めている。また、月に一回、静岡市保健福祉子ども局福祉部介護保険課の相談員が来訪し、入居者様と交流し、助言を頂いている。	運営推進会議の市職員の出席は年1回に留まっていますが、窓口には毎月出向く用件があるため相談事が解決に向かう態勢にあります。介護相談員は職員にも配慮があり、率直な言葉をかけてくれます。介護相談員受入事業者意見交換会へも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」を玄関に掲示、スタッフも意識して介護にあたっている。いかに拘束以外の方法で危険を回避できるか、スタッフ同士ミーティング等で改善策を話し合っている。	職員が迷っている場面では「自分がされたらどうか」「自分がされて嫌ならやめよう」と具体的に実践指導をしています。法人本部の身体拘束排除に係る研修会では全員が学習できるようシフトを工夫し、成果は職員の声かけに現れはじめています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体の介護研修を開催し、虐待に値する行為に対し、正しい知識を持ち、教育を行っている。お互いに注意喚起できる環境を作り、入居者様の尊厳を尊重するような介護の実践を目指す。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者様はいらっしゃらないが、管理者は、入居者様の事例を用いてミーティング時に勉強会を実施し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等、全ての説明を入居者様・ご家族様に充分説明を行い、理解と納得を得てから、契約を行っている。また、その際に入居に伴う不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時にも、状態変化に伴うケアの方向性の変更点が分かるように説明している。また、こちらからのご希望をお伝えする際も、ご家族様のご意見とのすり合わせを行い、家族様の意向を反映出来るようなケアに努めている。	面会では家族と職員とでお茶を味わいながら談笑する姿もあります。請求書発送時にはファミリア通信と身体状況報告書を同封し、「よくわかって嬉しい」という声ももらえており、中には管理者に電話でストレスを吐露する人もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、ミーティングを実施し、管理者と職員の意見交換の場を設けている。また、その際に運営方針の統一に努める。日々の相談は、朝礼時に報告したり、個別に管理者にあげるようにしている。	申し送りノートは利用者の特記事項、連絡ノートは事務連絡と明瞭に目的を分け、またユニット毎に会議をおこない、意見がしやすいよう整備しています。業務分担表は職員間で決めており、自主性が培われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修を定期的実施し、環境改善に取り組んでいる。現在も業務の見直しを行っている。各々のスタッフの働きやすい労働条件を加味して、シフトの作成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには教育担当がつき、介護技術の基本や自尊心を尊重できるような声掛けが出来るよう、教育している。社内研修にて既存のスタッフが、新人スタッフを教育する上でのマニュアルを認識できる様に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区内のグループホーム事業者の会合に、現在も参加しており、情報交換や質の向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報をスタッフ皆に、事前に確認して頂き、情報の周知に努めている。また、情報シートに目を通して頂いた上で、質問を承り、入所前の疑問の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のご契約の際は管理者が、ケアプランの説明の際は、ケアマネジャーが面談させて頂いている。ご家族様のご意見を傾聴し、今までのご家族様との関わりの延長線上の介護の提供が出来るよう、ご希望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規案件を承ったら、早急に面談を行い、事前の情報収集に努めている。また、その際の身体状況の把握と、当施設でどのような受け入れ態勢をとれるのかを話し合い、万全の態勢でご入居をお待ちできるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	病状が進行しても出来る事柄を模索し、症状の進行に合わせて、お手伝いして頂く内容を変更している。暮らしの中に、役割を感じて頂ける様に支援している。お盆拭きが出来る方には、毎食後にお手伝いを依頼し、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者を中心に、必要な協力体制を整えて頂ける様に、ご家族様と連携を取っている。また、ご家族様の来訪時には、スタッフからも近況の報告を行っている。ケアプラン郵送時にも、現状の変化・協力・ご理解頂きたい内容等を手紙にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会はもちろんのこと、ご友人が来訪された際は、スムーズに外出などの支援が出来るように、フォローしている。また、会話が困難な場合は、普段の生活などを代弁し、スタッフも一緒に交流を図っている。	毎月家族と寿司やかつ丼の夕食がある人、定期的に友人が訪れる人、洋裁の腕を活かしてボタン付けやウエスカットをおこなう人、それぞれがやりたいこと、できることをおこなっています。安定するに順って、面会できる家族が増えていくという利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性も配慮しつつ、席の変更を行い、少しでも安心して過ごして頂けるような人間関係の構築に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も新しい施設での生活を、ご家族様が当ホームをご来訪頂いた時にお伺いしたり、相談を受けることもある。退所後も、ご逝去のご報告を頂き、ご挨拶にお越し下さるご家族様もいらっしゃる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個室で過ごす時間も保ちつつ、食事やテレビ鑑賞などは他の方と過ごして頂くようにメリハリをつけている。共同生活を行う中でも、個人の時間の流れを感じて頂けるように配慮している。	入居前に家族やキーパーソンから生活歴や暮らしの趣について聴取しており、特に「午前中に風呂に入りたい」といったこだわりを大切に、意向に沿っています。また、カンファレンスで本人本位への係わりの方法を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、ご家族様から生活歴や趣味などの把握に努め、スタッフ同士で共有できるように、情報の統一に心がけている。また、入居後も会話の中から、馴染みの暮らし方などの意向を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、記録、職員間の伝達ノートなどを活用し、情報の共有に努め、日々の変化に気づき易い体制作りを努めている。また自立支援を意識し、過介護にならないように、残存能力の保持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体機能の低下に伴い、今までの介護方法では困難に直面する場面が多かった。その際は、スタッフ同士で意見を出し合い、ご家族様にご報告・相談を行う事で、福祉用具の変更など、現状に即した介護を提供できるように努めている。	入居から1ヶ月は暫定プランとして、その後3ヶ月毎に、また入退院等変調の度に見直しています。ケアマネージャーと管理者で作成し、職員には「私たちの仕事」とかみ砕いてわかり易く説明しています。	ケアマネージャーの責務が実質成されていない点が家族アンケートから挙がっていますので、早急に是正することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りを通じて、変調があった際は適時、対応ができるように情報共有を行っている。ケアの方向性の統一を行うように努めているが、記録内容に気づきの視点が少ない部分もあるので、今後、教育が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全てのニーズを汲み取ることは困難であるが、なるべくご納得頂けるような声掛けに努めている。通院時に介護タクシーを手配したり、必要物品を代わりにご購入させて頂いたり、ご家族様のご負担の軽減に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員からの紹介で、イベント時にボランティアの慰問を依頼している。今後は、新たな慰問を探したり、バリアフリー対応になっている場所に、外出レク等を行っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医とは月2回の往診。緊急時には、24時間対応で医師が往診に来られる体制をとっている。体調不良時は、小まめな往診の依頼を行い、総合病院への紹介なども行って頂いている。また、ご家族様の付き添いによるかかりつけ医への受診も対応している。	従来からのかかりつけ医へ家族の付き添いで受診する人が2名います。主治医と相談して欲しいことは予め伝え適正な判断をもらえるよう支援しています。診療内科には詳細な生活記録を携えて管理者が同行しています。全体往診が月1回あるほか、協力医は個々の往診もおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師が来訪され、健康管理を行っている。スタッフは、日々の体調の変化などを看護師に報告・相談をし、医療的な視点で指導を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、管理者が同行し、病院との連携を図っている。また、経過観察のため、お見舞いに伺ったり、ご家族様とも密な連携を図っている。また、入居者様の退院時は、職員体制も調整し、急変時に対応できるような体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態の変化が見られ、看取りの支援を行う際は、ご家族様、医師と改めて話し合いを行い、方針を決定している。	契約に際しては医療的措置が必要であれば看取りをおこなうことを家族に伝えていきます。職員は日頃から「穏やかに過ごしてもらうことを念頭に」との指導を受けていて、看取りにも抵抗感なく自然に取組んでいます。また、医師も24時間対応でターミナルケアに協力的です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を通じて、救急対応の知識の習得など、急変時に的確な対応が出来るように努めている。実践での対応が可能になる様、経験を通じて学ぶ姿勢を持っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、自治会との連携を図っている。また、連絡網を作成し、災害時に円滑に連絡ができる様にしている。ホーム内でも、防災訓練を行えるように年間計画に組み込みたい。	職員の入れ替えに伴い、本年度は本格的な訓練がおこなえていません。連絡網を試し何分かかかるかの計測や消火器の設置場所を確認するのみに留まっています。自主防災組織に所属する管理者が、地域防災訓練において避難場所まで歩いています。	初期消火にあたり、一度消防署職員の指導を仰ぐことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴などを配慮し、自尊心や個人の生活のペースが乱れないように、声掛けの言葉を選ばせて頂いている。	居室に入るときには必ず声をかけることを徹底しています。トイレ誘導も「ちょっと行ってみようか」といった代替の言葉を準備しています。法人研修では接遇について学び、その後の職員の言動にも変化がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、個々の入居者様の思いを自由に表出して頂いている。共同生活の中で、全てを叶えて頂くことは困難であるが、ご説明をさせて頂き、ご本人様が納得した形で自己選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活リズムを尊重できるように、規制をしないように配慮している。できる限り、ご自宅での生活の延長線上になるように、自由な生活と体調管理ができる様、双方のバランスに留意し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体的に負担にならない方は、なるべく好みのお洋服を着用して頂けるご支援している。男性の入居者様は、本人様の希望にて着替えが習慣化していない為、その都度、声掛けさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、肉・魚など専門店から購入し、新鮮な食材を使用している。柔らかいお食事を提供し、高齢者の方に好まれる食事に配慮している。また、嚥下機能の低下がみられる方には、食事形態を工夫する。	メニューは本部の管理栄養士のたてたメニューにそって、一汁三菜をベースとしています。曜日によって朝食にパンを取り入れ、昼食は脂っこいものは避け、栄養面のほかにも見た目や味わいへの気遣いがみられます。職員も同じテーブルを囲み、話も弾んでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を確認し、不足がある場合は声掛けにて促す。特に、暑い季節には脱水症状が起きないように充分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自立支援を促し、出来る部分は自己にて行って頂き、最終確認をスタッフが行っている。嚥下困難な方に対しては、誤嚥等に注意しつつ、衛生管理を行っている。また、必要時には歯科医が往診している。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握できるように、排泄チェック表を用いて、声掛けを実施している。服薬状況を確認し、個人の特性などに配慮している。現在、お手洗いで排泄は困難な方も、立ち上がり練習等を継続的に実施し、お手洗いで排泄を目指している。	できるだけ日中はトイレを慣行するためリハビリで過ごし、立位がとれない人を除きオムツは夜間のみとしています。「漏れると気持ちわるい」という人には夜間でも何度か様子をみています。トイレには陰部清浄ポットが常備されていることを視認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールが必要な入居者様が多い為、排泄チェック表にて確認し、服薬の調整を行っている。なるべくご本人様に負担の少ない排泄リズムを作れるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の固定はなく、各々の入居者様が定期的な入浴をご提供できるように努めている。時間帯などの希望のない方がほとんどである為、昼食後のスタッフ密度の高い時間帯を利用して、安全に入浴して頂ける様にご支援している。	車いす利用者も多くなっていますが、湯舟に浸かる喜びは格別と捉え、2人介助で以前と変わることなくほぼ1日おきの入浴がおこなえています。洗いタオルと併用で軍手を導入し、指の間といった細かい箇所まで洗身できています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	19時以降の就寝準備を行う際は、なるべく静かに声掛けし、眠りの妨げにならない様に注意している。特に不眠傾向にある入居者様は、就寝前に気分が高揚しないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助を行うスタッフを勤務帯によって役割分担し、色分けや声に出して介助を行うことで、誤薬のリスク予防に努めている。各スタッフに責任を持って服薬介助を行って頂く様に、常に業務改善を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況の低下により、今までの趣味や役割を継続することが困難な現状ではある。認知機能の低下に伴い、出来る事も限られるが、少しでも自身の役割が継続できるように介護にあたっていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族様が面談に来られ、半日ほど外出される方もいらっしゃる。また、通院の援助もご家族様がご担当頂いている。外出が困難な方が多いが、近所に散歩に出かけたり、外の空気を感じられるようなご支援を行っている。	重度化症状が蔓延していることから年度計画も進まず、近所への買い物や散歩程度のことしかできなくなっています。できることならの想いから、思い立って海岸線へのドライブに出かけたこともあります。	散歩が難しくても1日のなかに外気浴を位置付け、外出が出来なくともDVDや食べ物で外の景色を感じる工夫を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が管理しているが、お金の所持が安心感につながる方には、ご家族様に紛失の危険性も理解して頂き、所持して頂いている。必要物品の購入時は、ご本人様・ご家族様にご希望等を伺い、承諾されたのちに購入に至るように、連携を図っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が直接電話をすることが困難である為、管理者が代わりにご伝言をお伝えしたりしている。帰宅願望のある方には、手紙を書くように声掛けさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は、毎日、掃除機・薬液により水拭きを行い、清潔の保持に努めている。空調管理を行い、季節を問わず過ごしやすい気温を保ち、日当たりが良い時間帯は日向ぼっこが出来るようにご支援している。	カサブランカ、桃といった季節の花々が玄関で出迎えてくれ、ひな祭りの愛らしいお菓子が心に染みます。異食には掲示物を外し、転倒にはソファの位置を替えるといったリスクマネジメントを配した空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食卓など自由な空間として提供し、ソファの配置を変更したり、ご支援させて頂いている。席の配置も、入居者様の性格や人間関係を考慮して、皆様が過ごし易い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	人形や小物など、慣れ親しんだ物をご持参頂き、自室に飾られている。また、使い慣れた家具を持ち込んでおられる方もいる。お部屋の装飾は、各入居者様の自由に行うことが出来る。	ベッド、チェスト、カーテン、エアコンが備わっていますが、鏡台をはじめ大振りな家具の持ち込みもあり、音楽好きな人は自宅からCDを持参しています。転落が心配される利用者はマットレスで就寝しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード的な面で、死角になってしまう部分には、スタッフが声掛け等でカバーして、危険の回避に努めている。危険予測を行い、掲示物なども異食行為がある入居者様の目線以上に配置したり、事故防止に努めている。		